

基礎・教養科目

キャリアデザイン I

【ねらい】

適切で多角的な情報をもとに日本社会のあり方を理解し、自身の長期的キャリアを展望する。これをもとに自分にとって必要な大学生活を積極的に構想し、意識的に選択することができるようになる。

【特色】

講義形式を基本としながら、ディスカッションやロールプレイなど体験的な内容を取り入れる。また、心理学だけでなく、経営学・経済学・社会学など多様な学問的な裏付けを持つ情報を提供することで、大学での学びの幅を広げる。

【内容】

ライフコースの多様さや労働環境の変容など現代社会の大きな変化を理解するとともに、就職活動・労働法・賃金・家族形成・社会保障・ファイナンシャルプランなど、労働者および生活者として必要な基本的知識を学ぶ。また、社会への適応と抵抗の柔軟なバランスを意識しつつ、必要な大学生活の取り組みを具体的に考える。

基礎演習 I

【ねらい】

大学における学習に不可欠なスタディスキル（話す、聞く、書く、読むなど）を身に付け、今後の学習のレディネスを高める。スタディスキルとして、基礎演習 I では書く技術（ライティングスキル）を重視して取り組む。

【特色】

初年次教育として、大学での学習に必要なスキルを、講義、演習、グループワーク、ディスカッションなどによるアクティブ・ラーニングの方法を用いて実践的に身に付ける。

【内容】

外部教材を活用し、語彙力・文章読解力・計算力・図表読解力などの基礎に取り組み、「ロジカルライティング（主張・意見を考える／根拠をたくさん出す／整理する／文章にする）」を知り、特にライティングスキルを身に付ける。

情報・メディアリテラシー（応用）

【ねらい】

大学生活および、社会人としてパーソナル・コンピュータやインターネットを活用するために必要な ICT に関する基本的な技術と知識を獲得する。

【特色】

パーソナル・コンピュータを使用して、必要な情報を調べ・まとめて・発表（共有）するという一連の技術を養う。

【内容】

パーソナル・コンピュータを用いた調査・情報収集の仕方・レポートの書き方・発表の仕方・提出の仕方について知識を得て、実習を通してメール、Word、Excel、PowerPoint 等アプリケーションソフトとインターネットの基本的利用方法を学ぶ。

専門科目

成徳の心理学

【ねらい】

新入生が臨床心理学科の各教員の専門領域を知り、心理学や学科に対しより一層の興味を持つこと、また、大学4年間や卒業後の見通しを持つことを目的とする。

【特色】

臨床心理学科の全専任教員がオムニバス形式で開講する。先端のテーマも含んだ教員の専門分野を、新入生にも理解しやすい内容で講義する。

【内容】

1回の講義につき原則1名の教員が担当し、専門とするテーマを初学者向けに解説する。授業の形態も各教員の特色を活かし、講義形式やグループワークなど様々である。

心理学概論

【ねらい】

心理学の幅広い領域の成果について知り、今後の専門領域を学ぶための基礎知識を得ることを目的とする。具体的な心理学用語を理解できるようになるとともに、基礎心理学と実生活や心理学の応用とのつながりを理解できるようになる。

【特色】

心理学の基礎知識を幅広く紹介する。また、具体的な例を取り上げ、身の回りの出来事と結びつけることで、心理学への関心を高める。

【内容】

①心理学とは何かを理解し、心理学の多様な領域の理論や研究成果について概説する。②基礎心理学と自分の実生活や心理学的援助の関係について考える方法を紹介する。

臨床心理学概論

【ねらい】

臨床心理学を学ぶ、入門科目として位置づけている。そもそも臨床心理学はどう定義づけられるのか、臨床心理学が生まれるまでの歴史的な経過、古典的な理論の考え方を学ぶ。

【特色】

臨床心理学の多彩な理論、考え方をできるだけ広く扱う。また、理論と実際の援助場面、生活場面との結びつきが感じられる内容としている。

【内容】

「臨床心理学とは」「臨床心理学前史」「代表的ないくつかの理論」などを、主に講義形式で実施する。

心理的アセスメント I

【ねらい】

現在の日本において最も使われている、あるいは著名な臨床心理学的査定・検査を実際に体験する、体験的に学ぶことで、将来学生自身が業務で施行者となった場合の下地を作ることを目指す。また、性格検査などの体験を通し、学生の自己理解を促進する。

【特色】

実際に業務で利用されている器具を用いた学習を行う。また実践を通して自身の姿を客観的・数量的に見つめる場を設ける。

【内容】

前半を比較的理解しやすい、また自己理解にもつながる性格検査から進め、後半からはより実践的で内容的に比較的高度な知能・能力検査関連の内容を進めていく。

心理演習（心理支援実習）

【ねらい】

臨床心理学的実践において基礎・不可欠な技法や態度について体験的に学び、理解し活用できるようになることが目的である。カウンセリングの理論と技法を学び、特に青年期の課題に対応できる態度を養う。

【特色】

臨床心理学的実践においての基本は信頼関係作りである。この授業では、講義、グループワーク、ロールプレイを通して、自分の特徴を知り、信頼関係作りの基盤となる技能や知識、態度を習得することを目指している。

【内容】

基本的なカウンセリング理論、青年期の課題、カウンセラーの倫理観について解説する。そのような知識を得た上で、傾聴などカウンセリングの技法についてロールプレイを通して、体験し、繰り返し練習を積む。

スクールカウンセリング入門

【ねらい】

将来のスクールカウンセラー等の活動に生かすために、特別な支援が必要な子ども達を援助していく上で必要な基礎知識と技法を修得する。

【特色】

授業計画に沿ってクラスを分けて、あるいは、チームティーチングによって進める。大学院生のティーチングアシスタントも導入し初学者への演習等が円滑に行くようにサポートする。

【内容】

教師の教育活動や特別支援が必要な子どもについて理論や事例研究を通して学ぶ。さらに基本的な傾聴スキル、記録の取り方等実践的な演習を行う。

心理学研究法 I

【ねらい】

心理学では、行動、認知、感情など複雑な人の心的過程を明らかにするため、科学的な方法に基づく研究が積み重ねられてきた。この授業では、心理学における研究プロセス及び代表的な研究方法について基本的知識・技術を習得することを目標とする。また、研究を進める上での倫理について理解を深める。

【特色】

講義のみではなく、代表的な研究方法である観察法（時間見本法、事象見本法）、面接法（構造化面接、半構造化面接）を用いた演習を通して体験的な学びを展開する。さらに、受講生が研究を行うために必要なスキルとして文献検索、論文の読み方・書き方についても演習を通して習得できるよう授業を進める。

【内容】

心理学の研究とは何かという導入、研究倫理教育に続き、心理学の様々な研究方法（文献研究、観察法、面接法、質問紙法、フィールドワーク）について学んでいく。

青年心理学

【ねらい】

現代青年の心理的な発達の特徴について、ライフサイクル上の位置づけ、性的成熟の受容、友人関係や親子関係の変化などの心理学的諸側面から学ぶ。

【特色】

心理テストやワークなどを用いて受講者自身の体験を振り返り、青年期の心理的発達についての理解を深める。

【内容】

青年期の思考・感情・身体の特徴、アイデンティティ、家族・友人・異性、学校生活、キャリア発達、恋愛・結婚といったテーマを取り上げる。

精神疾患とその治療

【ねらい】

将来医療分野で心理臨床に従事する際に必要となる精神医学の基本的な知識を身につけることを目的とする。

【特色】

脳の構造と機能、精神症状、代表的な精神疾患や精神保健の概要について、指定の教科書と授業で配布するハンドアウトを活用しながら説明する。

【内容】

神経解剖学・神経生理学や代表的な精神疾患とその治療、リハビリテーションに関する基本的な知識を習得する。

心理学的支援法（心理療法C）

【ねらい】

心理療法の基本的な理論のひとつである、認知行動療法について、その理論、アセスメント、介入方法について学ぶ。自分自身に対して認知行動療法を実践できることを目標とする。

【特色】

認知行動療法のベースとなる行動理論、認知理論から始まり、認知行動療法の基礎的な技法・方法を、实例を交えて講義する。また仮想事例やビデオ映像を用いて、できるだけ実践的に学べるように心がけている。

【内容】

「認知行動療法の歴史(行動療法、認知療法)」、「認知行動的アセスメント」「介入技法（認知再構成法、エクスポージャー法、問題解決療法）」「マインドフルネス」といった、理論、実践の双方を学べる内容としている。